

## 令和 4 年度ユニバーサルデザインに関する職員アンケート調査結果（概要）

### 1 目的

障がい政策課が実施してきた事業に対する評価や、実施した事業が職員の認知度等について与えた影響および実践に向けての課題について把握し、今後の事業の参考とするため、下記のとおり調査を実施した。

### 2 実施概要

タイトル：ユニバーサルデザインに関する職員アンケート

対象：全職員（3,879 人） ※回答数：1,376 人

配付・回収方法：desknet's NEO アンケート機能による WEB 回答及び交換便配布による書面回答（保育園職場及び福祉事務所）

調査期間：令和 4 年 10 月 3 日（月）～ 20 日（木）※WEB 及び書面

### 3 集計結果概要 ※単位未満を四捨五入しているため、割合の合計が 100%とならない場合がある。

#### （1）属性

##### ① 年代

「50 代以上」と回答した人の割合が 31.1%と最も高く、「30 代」24.2%、「40 代」22.9%、「10 代・20 代」21.8%と続いた。

##### ② 職層

「一般職」が 73.0%と最も高く、「係長職」21.6%、「管理職」5.4%と続いた。

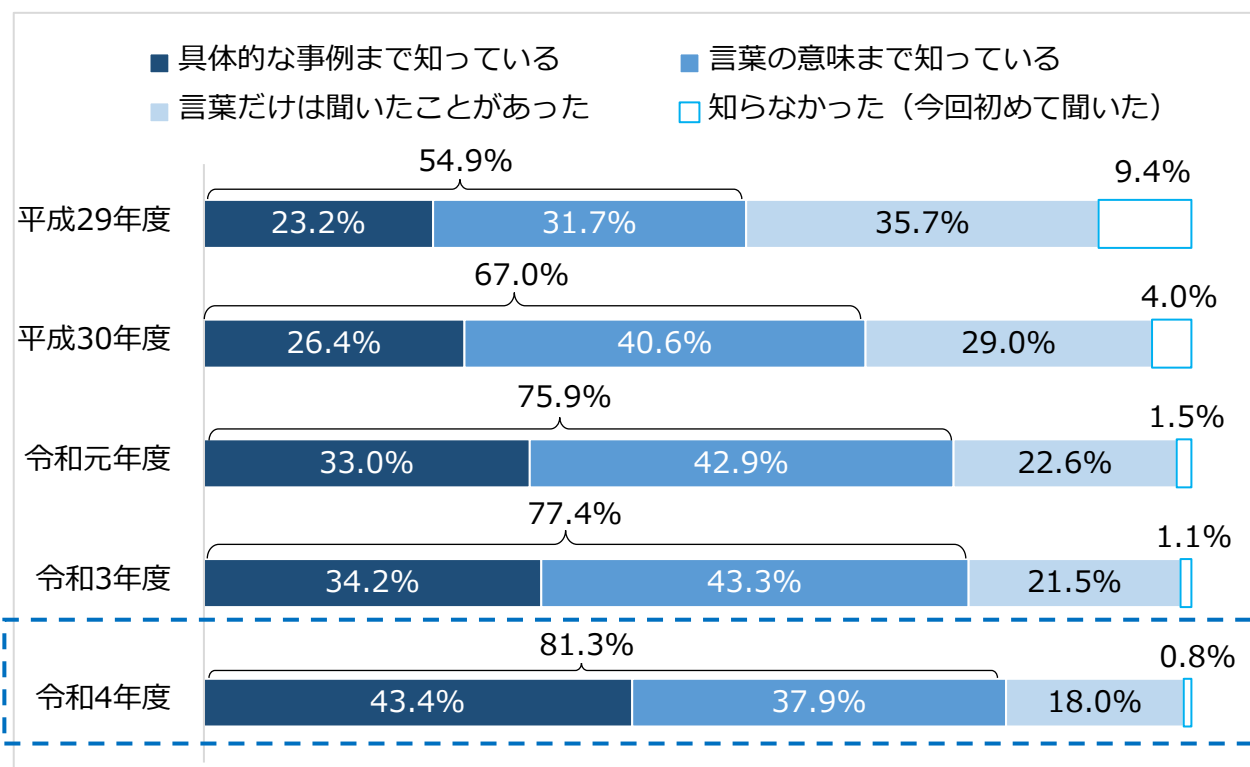
##### ③ 職種

「事務職」が 43.3%と最も高く、「福祉職」40.3%、「建築職」3.9%、「土木造園職」3.3%と続いた。

## (2) UDの認知度

### ① 回答内訳

- 「具体的な事例まで知っている」と回答した人の割合が43.4%と最も高く、令和3年度(34.2%)と比較すると、9.2%増加した。
- 「具体的な事例まで知っている」と「言葉の意味まで知っている」を合わせたUD認知度は81.3%であり、令和3年度(77.4%)と比較し、3.9%増加している。

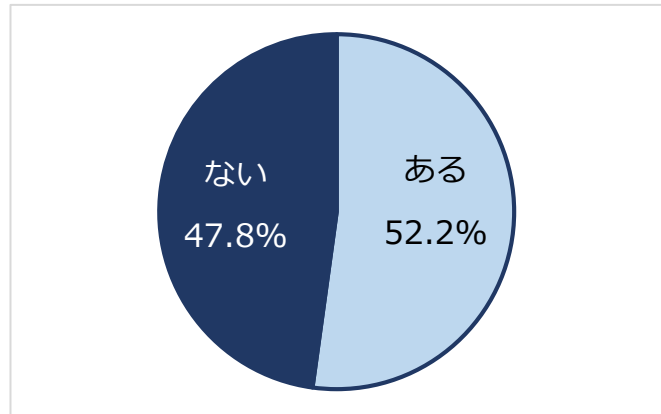


### (3) UDの配慮経験の有無

#### ① 回答内訳

○「ある」と回答した人の割合が52.2%、「ない」と回答した人の割合が47.8%と、半数以上の方が「ある」という結果となった。

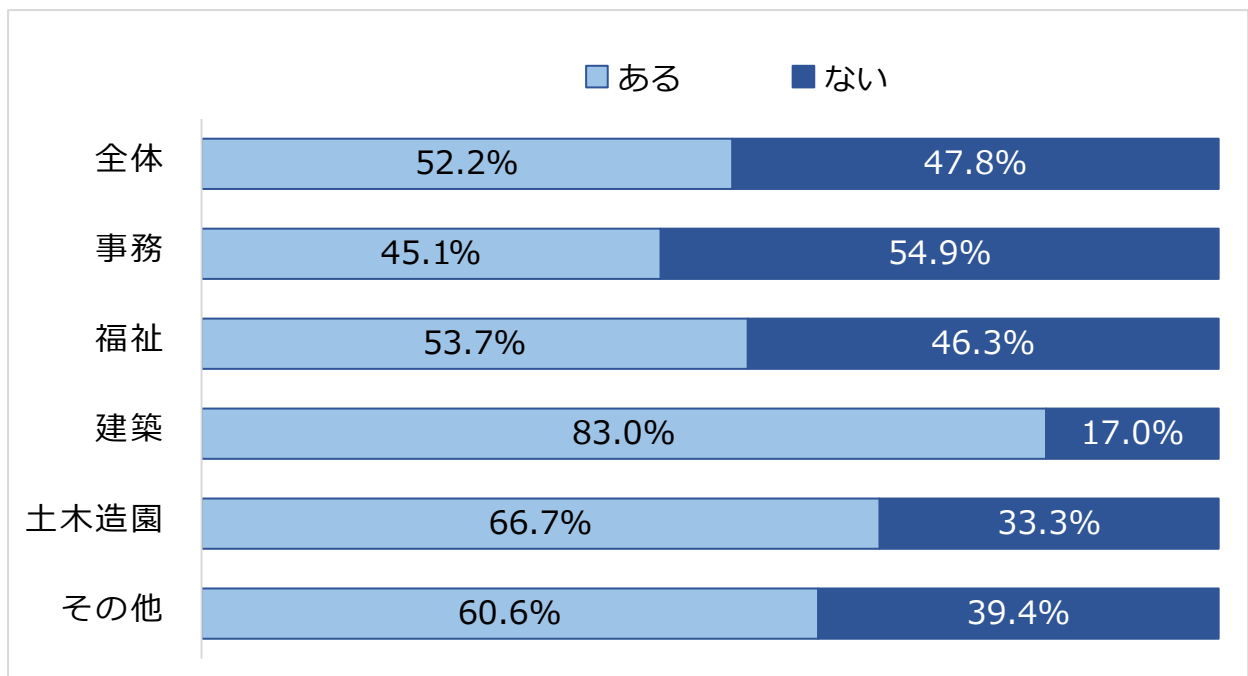
選択肢	人数	割合
ある	718	52.2%
ない	658	47.8%
計	1,376	100%



#### ② 職種別比較

○「ある」と回答した人の割合は、「建築職」が83.0%と最も高く、次に「土木造園職」が66.7%と続いている。

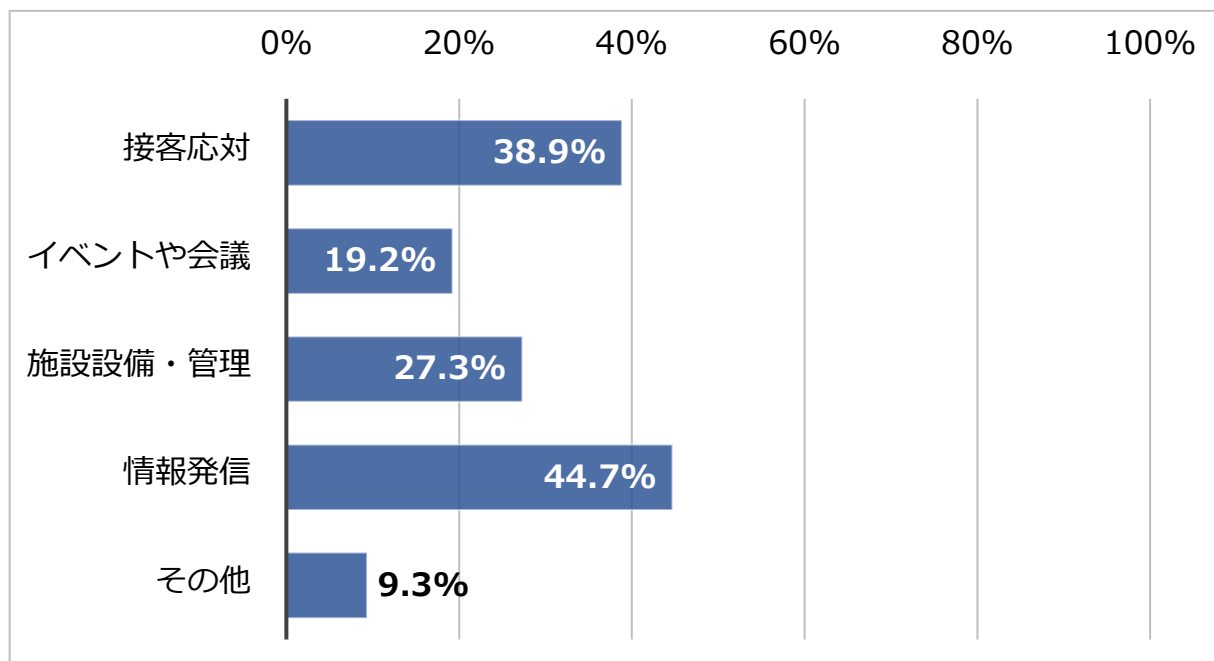
○「ない」と回答した人の割合は「事務職」が54.9%と最も高い。



#### (4) UD 配慮の内容

##### ①回答内訳

- 前の設問で「ある」と回答した人の、UD 配慮の内容について聞いた。
- 「情報発信」と回答した人の割合が 44.7%と最も高く、「接客応対」が 38.9%、「施設の設備や管理」が 27.3%と続いた。



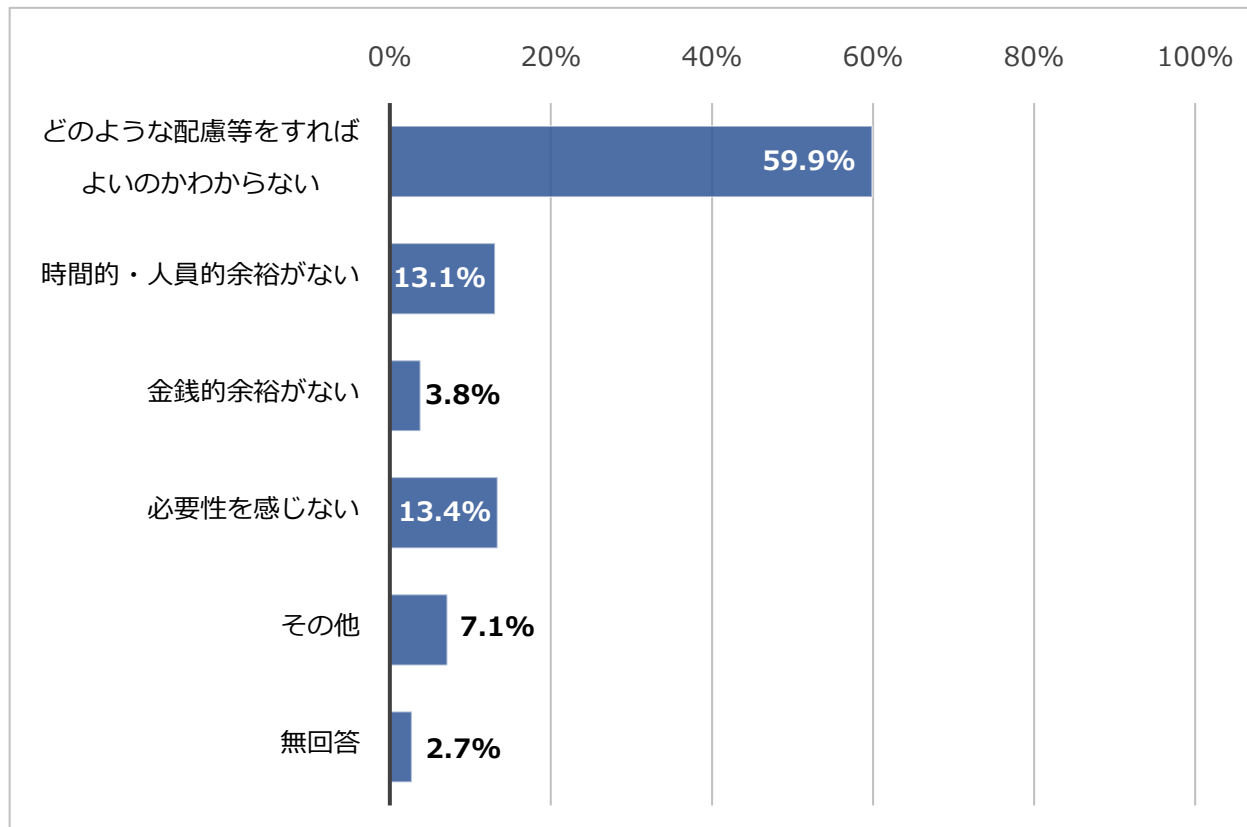
##### ②「その他」の具体的内容

分類	回答内容
接客応対	話す量を少なめに、ゆっくり話すよう意識している
イベント	イベントやセミナーで一時保育や手話通訳の手配、車いす利用者への配慮 保護者会での通訳やポケトーク使用
施設設備・管理	施設設計及び工事にてピクトグラムを用いた分かりやすいサイン計画など
情報発信	動画作成時、音声のみではなくテロップで必要なことを伝えるなど
その他	当たり前だと思うことが本当に当たり前なのかを考える習慣を意識している

## (5) UDに配慮したことがない理由

### ① 回答内訳

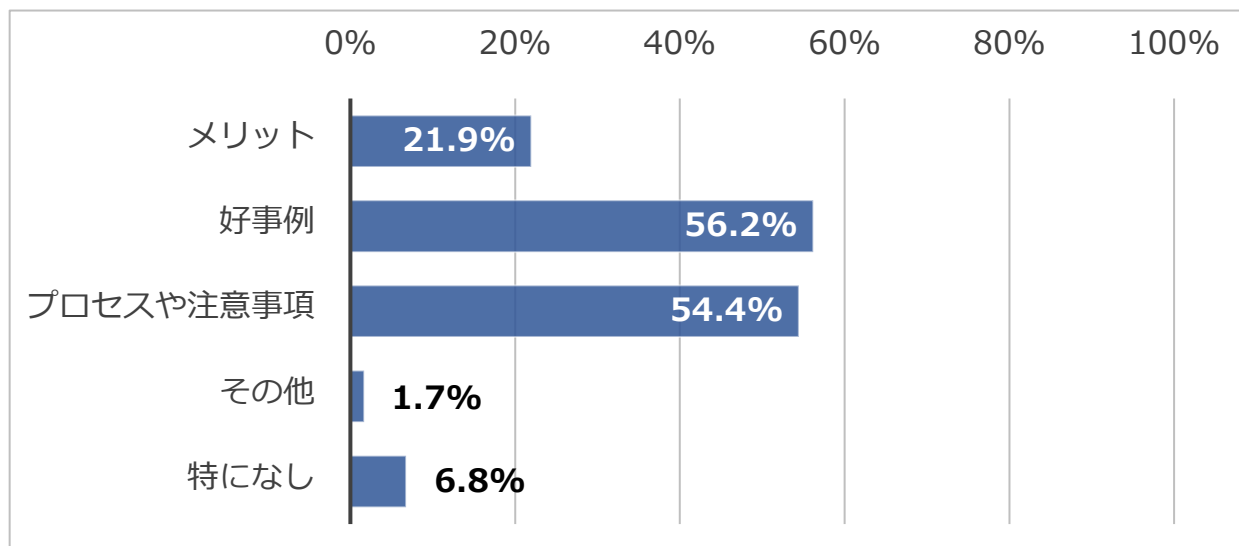
○UDに配慮したり、取り入れたことがない主な理由について、「どのような配慮をすればいいかわからない」が59.9%と最も高い割合となった。



## (6) UD 実践のためにどんなことが知りたいか

### ① 回答内訳

○「区内や他自治体、民間等の好事例」が 56.2%と最も多く、「具体的なプロセスや注意事項」が 54.4%、「取り組むことによるメリット」が 21.9%と続いた。



## (7) 区の UD に関する取り組みで、参考になったもの

### ① 回答内訳

○「ガイドライン」が 31.1%と最も高く、「UD ニュース」(23.8%)、「気づくかな」(20.6%)と続いている。

○「ない」と回答した割合は 28.6%となった。

